



太平洋戦争の学習（8時間扱い）

(1) 本単元のねらい

「なぜ日本が太平洋戦争に突入していったのか？」国際関係の中でその背景を探り、この戦争が日本国民・アジアの人々にどのような影響を与えたのかを筋道たてて理解することができる。

「太平洋戦争を回避できなかったか？」という討論を通じて、当時日本が国際関係の中陥っていた状況を理解し、回避する現実的な方法を探っていこうとする姿勢を養う。

出征兵士、勤労学生、中国朝鮮の人々らの戦時中の様子を調べ・発表する学習を通じて、様々な人の立場にたって戦争を多面的に検証することができる。

(2) 太平洋戦争の授業計画

学習活動・学習内容	・指導上の留意点
各時の授業展開 太平洋戦争の学習の流れ 毎時間、終了時に自己評価を行う。	・自己評価を行うことで、毎時間目的意識をもたせる。
<p><第1時> 【太平洋戦争学習の導入】</p> <p>(テーマ)『太平洋戦争を身近に感じ、学習意欲を高める!』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熊谷大空襲」のビデオを見て、私達の住んでいる埼玉県でも悲惨な状況があったことを改めて知り、「なぜこんな悲惨な戦争が行われていたのか」を考える。 ・小学校で学習した既得知識をもとに、太平洋戦争について知っていることをあげる。 ・年表で戦争前後の流れを確認する。 ・「本当にそうなのか？」様々な資料を使って、太平洋戦争を検証する授業を展開する、ことを聞く。 ・さいたま市にある太平洋戦争に関する遺物など、調べてきたことについて発表し、遺物などの位置をさいたま市の大きな白地図にシールを貼っていく。 ・この地図を見て、気付いたこと、疑問に思ったことをノートに書き、発表する。 ・次時からの授業内容の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期の休みに、祖父、祖母、地域のお年寄りに「太平洋戦争」に関する聞き取り調査を行わせ、発表できるようにまとめさせておく。 ・活発に発言させるようにし、全員に太平洋戦争に対するイメージを具体化させる。 ・前時に宿題で「さいたま市にある太平洋戦争に関する遺物」調べてくるよう指示をする。 ・浦和でも空襲があり、亡くなっている方がいることを知らせ、空襲が身近にあったことを感じさせる。 <p>太平洋戦争に関する遺物を積極的に調べるなど、意欲を持って学習しようとする姿勢が見られたか。</p> <p style="text-align: right;">(意欲・態度)</p>
<p><第2時> 【情報交換】</p> <p>(テーマ)『太平洋戦争に至るまでの過程を、筋道たてて自分の言葉で説明しよう!』</p> <p style="text-align: center;">どのように太平洋戦争は起こったのか?』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に、年表を使い教師の説明を聞きながら振り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の形式をとり、生徒に活発に発

- ・世界恐慌から先々時の第二次世界大戦開始に至るまでの学習を振り返り、プリントに自分の考えを書いていく。
- ・数名の生徒が発表する。

- ・放課後に、全員の「説明文」を社会科掲示コーナーに貼り、クラスメイトによる相互評価を行う。

言させる。

- ・その際、今まで学習した資料をふまえて書くが、丸写しではなく、自分の言葉で表現させる。

太平洋戦争に至るまでの過程を、筋道たてて説明できたか。(思考・表現)

<第3時> 【討論学習・発表学習準備】

- ・討論学習、発表学習を行うこと、そのやり方、それぞれのテーマと学習内容を聞く。

- ・討論学習、発表学習同時並行で下調べを行う。

討論学習テーマ

『御前会議を行おう！「日本はアメリカと戦争すべきである」』

- ・開戦派、反戦派に分かれて討論をする。反戦派は、戦争以外の打開策を考える。
- ・1班5人×2班で班ごとに役割分担をし、下調べを進める。

発表学習テーマ

『さいたま市の戦時中の人々は、どんな想いで生活していたのだろう！

～様々な立場の人々の様子を調べ、考えよう～』

- ・5つのテーマを設定する。 出征兵士 勤労学生 銃後の生活 学童疎開 空襲の様子
- ・1班5人×5班(～を割り当てる)で班ごとにテーマに関する課題を作り、仮説をたてる。班ごとに役割分担をし、下調べを進める。

(発表内容) 1テーマ、課題 2課題に対する仮説 3課題解決のための手立て(小見出し3つ程度) 4課題に対する答え 5まとめ 6わかったこと など

- ・班ごとにテーマを割り振る。
- ・班で話し合い、課題を複数決め、課題に関する仮説をたてる。
- ・発表方法を班で決める。
- ・自分の役割に従って、ノートに下調べをしてくる。

班で活発な話し合いが行われ、課題を作ることができる。

(意欲・思考・表現)

- ・下調べのため、土日をはさめるようにすると良い。
- ・インターネット資料は、公の機関のホームページ以外は不可とする。

<第4・5時> 【討論・発表原稿作りとリハーサル】

- ・各班ごとに収集した資料を選択し、それをもとに課題解決を図り、討論・発表のための作業を行う。
- ・選択した資料の図表化を行い、ポイントとなる内容をまとめる。
- ・発表のリハーサルを行い、班の中で発表に関する意見

班で協力してスムーズに発表のための作業をすることができる。

(意欲・態度)

- ・各班ごとにまとめ方を工夫し、発表にオリジナリティをださせるように心がける。
- ・資料は丸写しではなく、自分の言葉で表現させる。

を交換する。

聞き手の立場にたった表現方法が考えられる。(表現・思考)

<第6時>【討論学習】(テーマ)『御前会議を行おう!「日本はアメリカと戦争すべきである」』

- ・第2時で書いた「太平洋戦争に至るまでの過程」の説明を代表生徒が発表し、年表で大まかな流れを復習する。
- ・開戦派、反戦派に分かれて討論をする。反戦派は、戦争以外の打開策を述べていく。
(流れ) 開戦派の主張 反戦派の主張 反戦派から開戦派への質疑応答 開戦派から反戦派への質疑応答 開戦派の最終論述 反戦派の最終論述
- ・開戦派、反戦派のどちらが理にかなった論を展開していたのか、討論を聞いていた聴衆がジャッジをする。
- ・聴衆の代表数名がジャッジした理由を述べる。
- ・討論の内容について、教師の話聞く。

- ・太平洋戦争に至るまでの過程をもう一度念頭に入れ、討論に参加させる。
- ・聴衆には、主張や質疑応答を聞きながらメモをとらせることを伝える。
- ・討論者は早口にならず、聞き手にわかりやすいように主張が述べられるよう、指導する。
開戦派、反対派の両方の主張を聞いて、広い視野で太平洋戦争の原因を考えることができたか。(思考・判断)

<第7時>【発表学習】『さいたま市の戦時中の人々は、どんな想いで生活していたのだろう!』
(テーマ) ~様々な立場の人々の様子を調べ、考えよう~

- ・班ごとに課題解決学習の成果を発表する。(5班)
出征兵士 勤労学生 銃後の生活 学童疎開 空襲の様子
- 各班の発表の仕方は、
1 発表(4分) 2 ノートにまとめる(2分)
3 質疑応答(2分) 4 移動(1分)
この流れを5回行う。
- ・本時の発表のまとめをさいたま市戦争史跡マップなどをを使い、教師が行う。(3分)

- ・司会進行、計時は、生徒に行わせる。
様々な立場の人の視点で考えを深めながら、多面的に太平洋戦争の様子が理解できる。(思考・理解)
- ・発表し終わった資料は、クラス内(廊下)に掲示し、いつでも見ることができるようにする。
- ・詳しい太平洋戦争の流れ、まとめは次時行う。

<第8時>【討論・発表を受け、太平洋戦争の流れを押さえ、さらに朝鮮・中国との関係を考える】
(テーマ) 『日本人は被害者なのか、加害者なのか』

- ・年表を用い、第6,7時の生徒発表をもとに、教師主導で太平洋戦争の流れをおさえる。
- ・映像など、資料を多く使い具体的に説明していく。
- ・日本の空襲の被害、特に原子爆弾による被害について

- ・軍隊の酷さを感じさせ、「戦争が人を醜くする」ことを考えさせる。
- ・原子爆弾による被害の様子は、映像

考える。{東京大空襲 広島 長崎}

- ・被爆者の体験談を読み、感じたことをまとめる。
- ・「日本軍は朝鮮、中国でどんなことをしていたのか？」資料をもとに朝鮮、中国の人々の立場にたつてこの戦争を見ていく。 {虐殺 徴兵 日本へ強制連行}
- ・本時のテーマ、『日本人は被害者なのか、加害者なのか』について自分の考えをプリントにまとめ、提出する。
- ・年表を使い、太平洋戦争の総まとめを行う。
- ・次時、全員の考えをのせたプリントを読み、クラスメイトの考えを理解し、思考を深める。

を駆使し視覚的に訴える。

- ・「もし自分の家族が同じ事をされたら」と常に考えさせ、対象者の立場にたつて物事をとらえさせる。

本時のテーマに対し、今までの学習をふまえ、総合的に判断し、理由を明確に説明することができる。

(思考・判断)

資料

(3) 訪問先及び資料の入手先

さいたま市立博物館、埼玉県立博物館、(片柳)万年寺、(馬宮)高城寺 疎開
 陸軍造兵廠大宮製造所(現、陸上自衛隊) 無線誘導弾、風船爆弾用の高度調整器 を製作
 戦没者慰霊塔(与野公園)、熊谷市立図書館資料室、 戦没者慰霊の女神像(熊谷)
 埼玉県平和資料館(高坂)、 江戸東京博物館、横綱公園(両国)、 広島・長崎原爆資料館 など

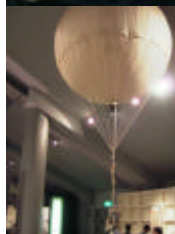
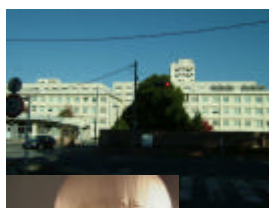
さいたま市への疎開



万年寺

日本橋坂本国民学校の児童が疎開した

陸軍造兵廠大宮製造所跡



風船爆弾
用の高度
調整器

を作っていた

中島飛行機工場跡



太田の中島飛行機工場
で作られた戦闘機

熊谷空襲



平和地藏



戦没者慰霊の女神像



熊谷に落とされた、焼夷弾

広島原爆爆心地



長崎爆心地

近くの防空壕

